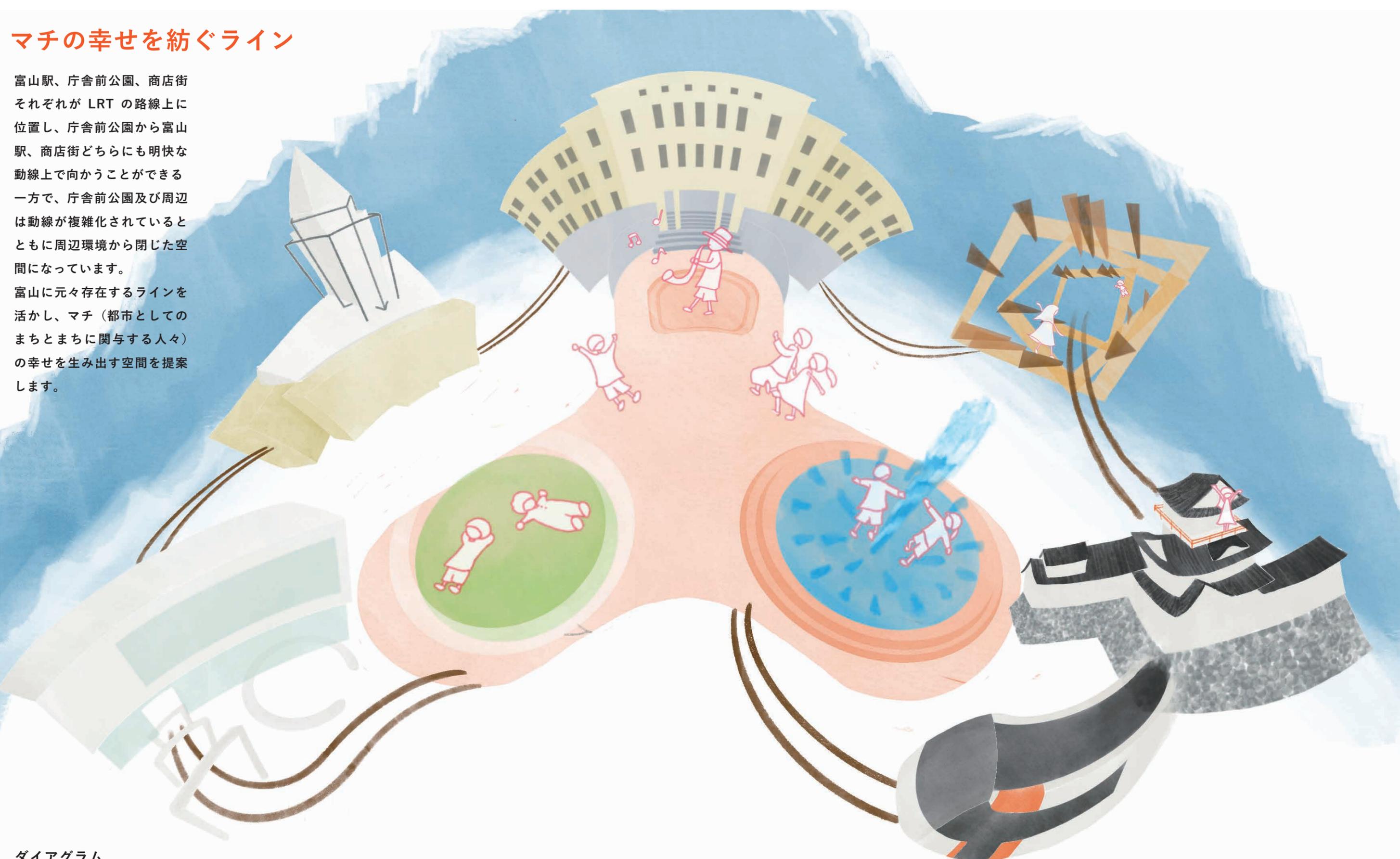


マチの幸せを紡ぐライン

富山駅、庁舎前公園、商店街
それぞれが LRT の路線上に
位置し、庁舎前公園から富山
駅、商店街どちらにも明快な
動線上で向かうことができる
一方で、庁舎前公園及び周辺
は動線が複雑化されていると
ともに周辺環境から閉じた空間
になっています。

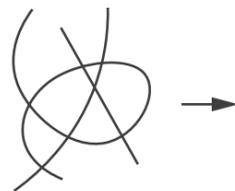
富山に元々存在するラインを
活かし、マチ（都市としての
まちとまちに関与する人々）
の幸せを生み出す空間を提案
します。



ダイアグラム

①ラインに目的を持たせる

現在の対象地は、動線が複雑化した状態になっています。本提案では、動線を明確化し、それぞれのラインに意味をもたせます。



②既存のラインを活かす

対象地の周辺の動線が明快であることから、対象地内の動線を明確化する際、既存のラインから動線を考えます。



③太くながいライン

富山駅周辺には、TOYAMA キラリ、富山城址、松川等多くの「点」が多く存在している一方で、「点」同士を結ぶラインが弱いと考えます。対象地も含めひとつのラインと捉え、対象地から周辺地域に向けてラインをのびし、太くすることでライン上での多様な活動を許容します。



コアエリアの空間構成と活用イメージ

---> 動線

非常用電源を設け、日常時はキッチンカーで招いたり、イベント実施に使用します。

ライン

グリッド上に配置された樹木は日陰となり樹のそばで休むことや樹木の枝に布を縛りテントのように活用することもできます。

やね

やま

こもれび

噴水

カフェ

やねの下で涼んだり、やねに上がって美しい立山を望むことができます。

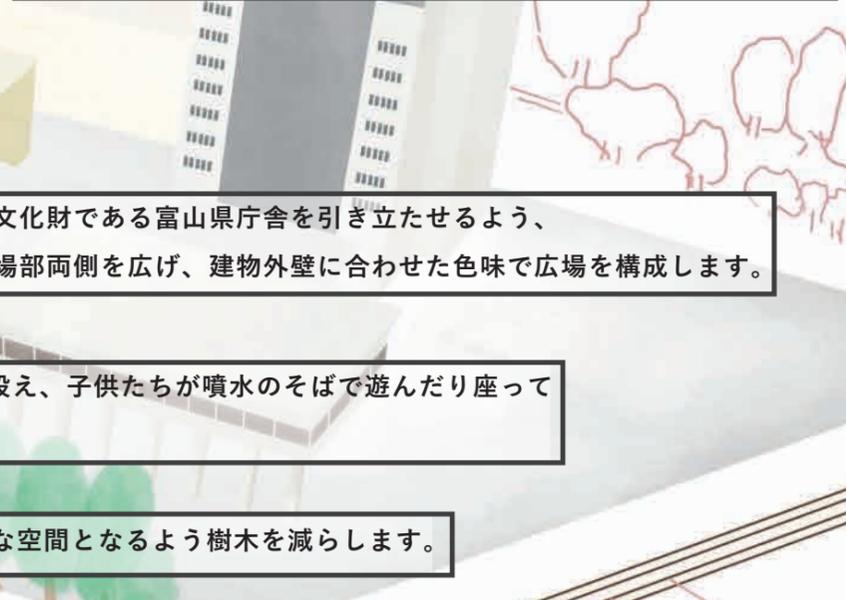
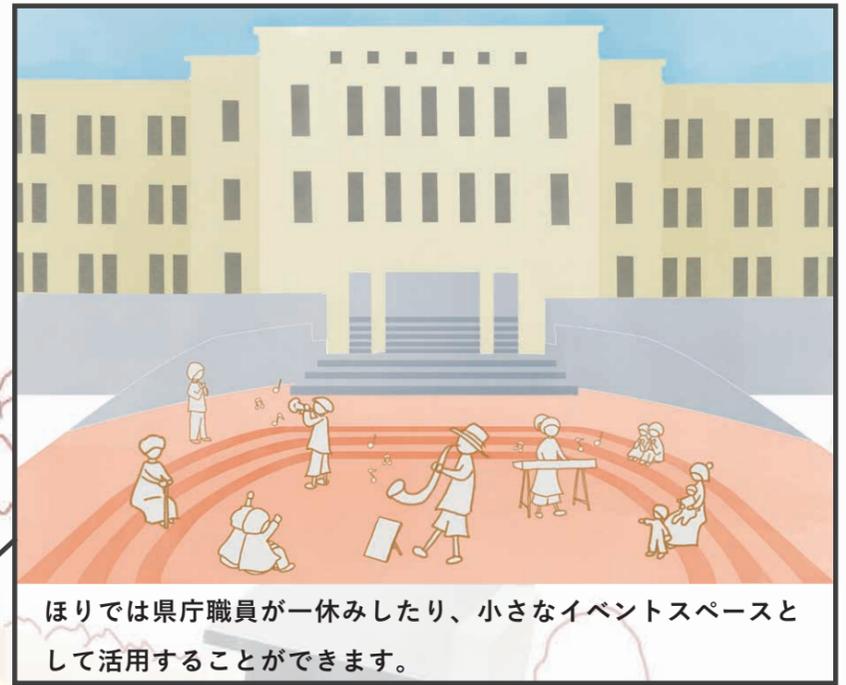
周辺で働く人や近所に住んでいる人が気軽に訪れることができるカフェを設えます。

有形文化財である富山県庁舎を引き立たせるよう、駐車場部両側を広げ、建物外壁に合わせた色味で広場を構成します。

噴水の周りにデッキを設え、子供たちが噴水のそばで遊んだり座って休むことができます。

開放的な空間となるよう樹木を減らします。

RT から噴水であそぶ様子や、カフェを利用する人々の活動を見ることが出来ます。

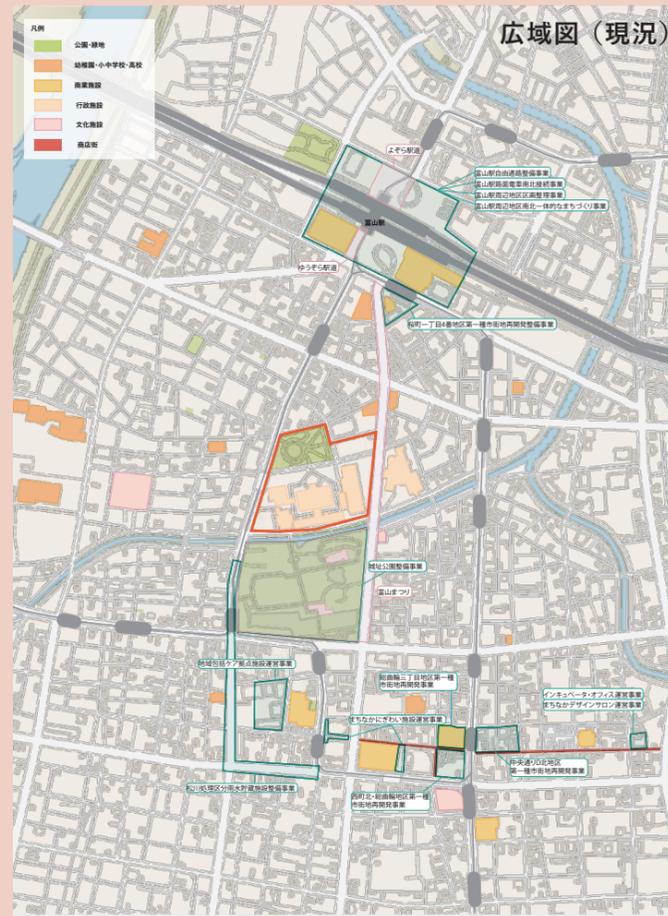


対象地は、富山駅と総曲輪通の間に位置し、対象地から富山駅、総曲輪までともに徒歩 15 分程度の距離に位置しています。

対象地周辺には、行政機関の他、幼稚園、小中学校、高校と教育機関が多いほか、美術館といった文化施設も多く存在し、商業施設は富山駅前と商店街付近に集中している状態です。イベントで使用できるような敷地のある公園・広場は少なく、現在は富山駅前と富山城址でイベント・社会実験が行われています。

また、現在実施されている事業をみると、富山駅周辺と商店街周辺の点的な事業が多く、一体となったまちづくりはまだ落とし込みできていない可能性があります。

さらに、LRT の利用者数は年々減少し、自動車での移動が増加している一方で、自家用車を持たない人も多く存在しています。



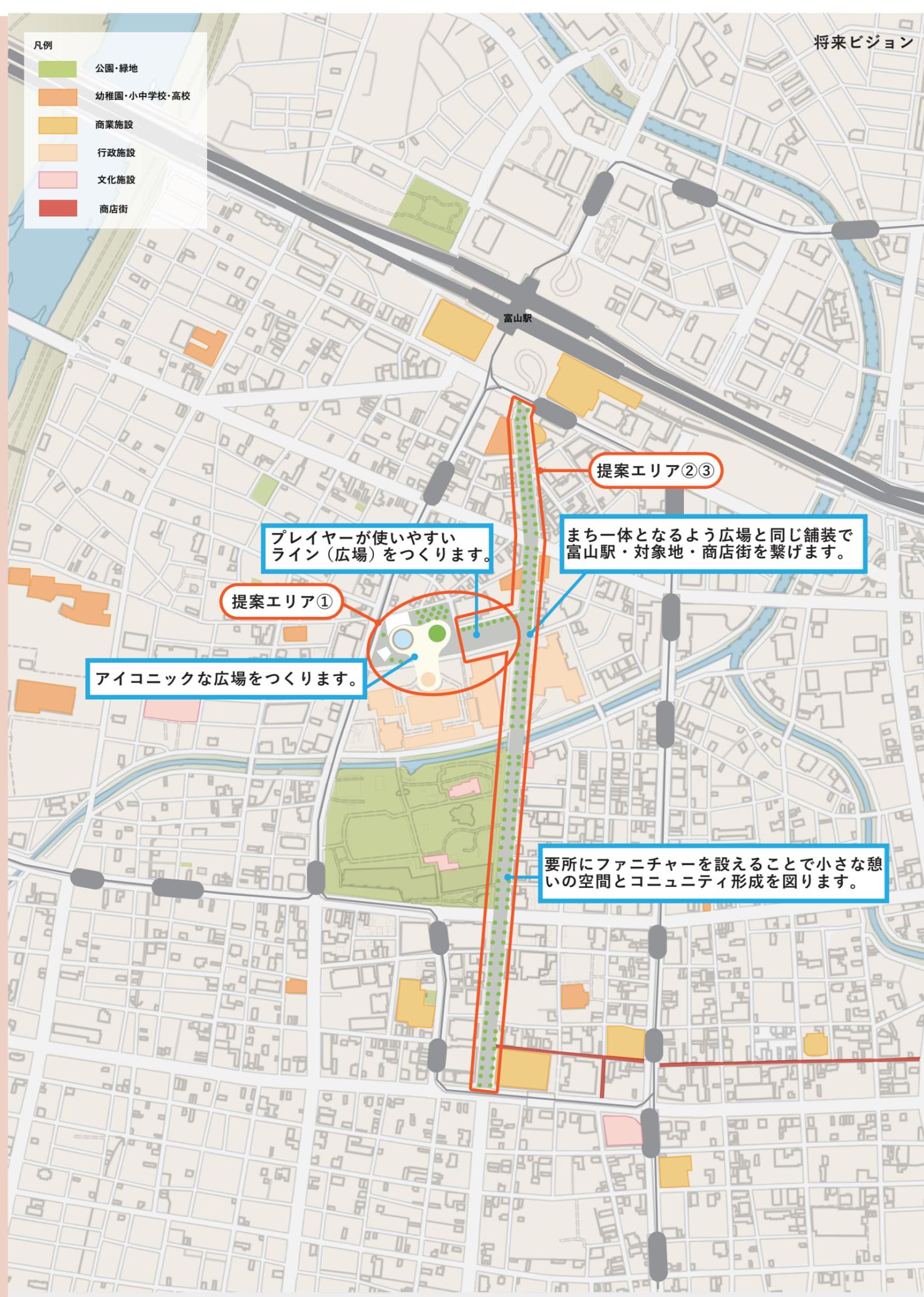
対象地の持つポテンシャル

少し運動するにはちょうど良い距離

プレイヤーが中規模イベントを実施したいときに実施できる広さと位置

歴史的・自然的要素が集合している

付近の従業者だけでなく観光客や学校終わりの学生がフラックと立ち寄れる



提案①歴史・水辺・緑を生かしてまちの中心における憩いと愉しみの空間を形成し、来訪者・従業者・居住者のウェルビーイングを向上させるエリア

3つの円をまとめるライン

既存の建造物を活用し、噴水（水）と築山（緑）、ポケットパークと異なる顔を持つ憩いの空間を形成し、それぞれをまとまりのある空間に設えることでアイコニックな広場となります。築山の周りには屋根をかけ、富山駅前との関係性を持たせます。



富山駅を象徴する円形の屋根と同様の形状の屋根をかけることで駅との関係性をもたせる

②まちなかの連続性・回遊性を高めて、まちをシームレスにつなぐとともに、周辺街区に賑わいの好循環をもたらすエリア

駅・エリア・商店街と連続したライン

点的に整備されているまちに対し、対象地が駅と商店街の間に位置していることを活かし、連続したラインを形成することで連続性を高めます。大通りは、歩行帯を拡張することで自動車の流入を抑制し、歩行者が歩きやすい空間となります。

③公有地を舞台に県内外の多様なプレイヤーが集まり、産学官民連携や人々の交流が積極的に行われ富山のまちの核として求心力と発信力を生むエリア

広場化したライン

NHK 跡地は大通り沿いに面し、商店街まで一本の道で向かうことができることを活かし、プレイヤーが身近にイベント等で活用できるラインとして整備します。大通りも歩行帯を拡張、とほ活・ベンチプロジェクト等を活用し小さなコミュニティスペースを生みだします。